

鳴瀬川等大規模氾濫時の減災対策協議会（第5回協議会）
北上川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会（第5回協議会）
【水防災意識社会再構築ビジョンに係る情報交換会（トップセミナー）】

議 事 概 要

- 日 時：令和元年5月29日（水）9時30分～12時00分
○場 所：石巻市遊楽館 大会議室
○委員出席：14市町村のうち、首長は5自治体出席
○報道機関：三陸河北新報社

1. 協議会の進め方

- (1) 大規模氾濫時の減災対策協議会規約の改定について
(2) 取り組みのフォローアップ報告
- ・ 幹事会の報告について
 - ・ 減災に係る主な取組について（H30・R1）

上記について、事務局から一括説明 ⇒ 承認

2. 意見交換（抜粋）

○委員（大衡村長）

- ・ 日頃大変お世話になっております。大衡村はご承知のように吉田川、善川の吉田川水系の中にあり、上流に位置していますので水害に関しては大和町や松島町に比べて今のところあまりリスクを感じていません。しかしながら大衡村は工業団地等々開発した所から水が出てきますので、下流の皆さまにご迷惑かけているのではと思っています。
- ・ 大衡村では遊水地の計画・開発が順調に進んでおり、村としてもご協力させていただきたいと思っております。令和元年につきまして先ほど話がありましたが、いろいろと計画しているところではありますが、地域防災計画の改定は既に実施致しました。
- ・ ハザードマップの改定は今年度中に配布を終了したいと思っております。
- ・ 村のハード面では、村の総合防災訓練を6月23日に予定しており各行政区全域で行います。
- ・ 今年は宮城県の9.1総合防災訓練を大衡村で実施するにあたり、県の河川管理課のバックアップを受けて行いたいと思っております。ただ、ご承知の通り大衡村は小さい村なので財力にあった規模でやりたいと思っております。今後ご指導とご支援宜しくお願い申し上げます。

○委員（大和町長）

・吉田川の床上浸水対策につきまして、皆さまのご協力大変ありがとうございます。2月から本格的な工事がスタートしていただきました。遊水地の問題につきましても地権者方々に丁寧な説明をいただきまして、理解してもらえたかと思います。今後とも宜しくお願い致します。

・平成30年度の事業につきまして、昨年は防災気象講演会を開催していただきました。気象庁の皆さまが主体となっただき、大変ありがとうございました。参加者からは、「専門的な情報や環境が変化している説明など聞かせていただき、大変勉強になりました」と話がありました。機会があればまた宜しくお願い致します。

・大和町でもハザードマップを新たに作成しているので、今年度中に全戸配布したいと思います。地域防災訓練につきましても毎年旧町村単位で取り組んでおり、今年度も実施していきたいと思います。

・北上川下流河川事務所のご協力をいただきながら重要水防箇所の合同巡視につきましても、毎年少しずつ環境が変わってきますので、地域の方々や消防団一緒に回っていただき確認してもらいたいと思います。大和町からは以上でございます。宜しくお願い致します。

○委員（松島町長）

・大変いつもお世話になっております。遊水地につきまして吉田川上流で施工していただいています、下流の松島町としても御礼申し上げたいと思います。一日も早く出来ていただければ、我々の安心度も増すのではないかと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。

・H30年度総合型防災マップを10年ぶりに更新致しました。想定最大規模の豪雨による洪水浸水想定区域が以前は無かったのですが、今回家屋倒壊等氾濫想定区域、土砂災害などの情報を用いて防災マップを昨年の11月に全世帯に配布しております

・松島町は観光地なので、観光エリア限定の津波ハザードマップを作成しております。津波ハザードマップを観光客が分かりやすいようにランドマークとして観光施設を表記し、更に外国人観光客の対応といたしまして重要な部分については英語で表記しております。ホテルや観光案内所に配布しております、外国人の方々にもお渡ししながら防災マップを配っております。

・松島町は山と平地が入り組んでいる場所が多く防災行政無線がなかなか効いていないので、戸別受信機の無償貸与を去年から始めています。難聴区域は今現在500世帯と見ており、3ヶ年で取り組んでいるところであります。

・人材育成事業と致しまして、宮城県防災指導員フォローアップ研修を開催して、避難行動要支援者の支援体制づくりについて研修を行いました。また、町の職員についても防災士として養成しています。昨年10数年ぶりに総合防災訓練を大々的に実施致しまして、津波震災以降からなかなか防災訓練を出来ませんでした、昨年11月5日の防災の日に合わせて実施する事が出来ました。

・令和元年度につきましては、避難勧告等に関するガイドラインの改定や防災重点のため池、ダム の異常降水等々につきまして、近年の法改正や地域の実情に対応した計画への見直しに取り組んでおります。

・松島町は高齢化が進んでいる町でもありますので、「防災」と「福祉」の連携として、高齢者包括支援センターのケアマネージャー等と協力し、高齢者の避難行動を促進していきたいと考えております。今月の5月23日に意見交換会に参加し情報提供などを行いました。

○委員（美里町長）

・美里町の取り組みについてですが、ご覧の通り水防訓練を実施しております。また防災フォローアップ事業などを町民の皆さんとしっかり対応出来るようになるため毎年行っております。

・本町は江合川と鳴瀬川に挟まれた地域で、河川が決壊したならば行き所が無いので大きな水害になるのではと非常に心配です。常日頃から河川改修をしていただき、しっかりに対応出来ているのかと思います。河川の危機管理の機器なども充実したことで、今までとは違い危機管理が早く対応出来るのかと思っております。

・水害が発生したら何処に避難をすれば良いのかを、近隣市町村の皆様方にもしっかりと対応出来る体制をお互いに協議会の中でも関係した形で、避難対策を講じていかなければならないと思います。今後、住民の安心の為にもしっかりとした形が出来れば更に良くなると思います。

・毎年災害・水害対策について心配しておりますので、これからは職員が第一線で災害の時に対応出来るよう職員研修を行い、住民への安心・安全の形を作っていきたいと思っております。今後ともご指導等宜しく申し上げます。

○委員（涌谷町長）

・昨年度は水害を想定した防災訓練を実施し垂直避難訓練などを行うことで、住民の防災技術の習得を図っております。自主防災組織の取り組みとしては、地区防災計画の作成・推進を目的とした講演会を実施いたしました。また H29 年度に改定した防災マップを使用して、これまでの災害と照らし合わせながら防災知識の向上を図っております。

・例年行っている、北上川下流河川事務所との重要水防箇所の合同巡視や、昨年度の大崎水防演習では美里町と合同による水防演習を実施いたしました。

・今年度の取り組みとしては、水害を想定した防災訓練を実施し、タイムラインの実効性を検証しながら北上川下流河川事務所や関係機関との連携等を実施していきたいと考えています。

・避難される際の住民の行動を見ますと、あまりにも瞬間的に命が失われるという意識が無く、割合のんびりとした傾向がうかがえます。避難所についても快適な場所に集中して分散しないでいることがありますので、指定された場所にしっかり分散し、利用者

がお互いに助け合えれば、避難所での混乱はかなり避けられるのではないかと思います。

○委員（石巻市長（代理））

- ・先程、事務局からご紹介の通り、出前講座を実施しております。
- ・昨年につきましては、7月の西日本豪雨の影響もあり、住民にとって水害に対する関心はかなり高まってきております。昨年から防災センターの運用も開始したことで、さらに水害に対する意識向上を目的として実施して参りたいと思います。
- ・今年度は洪水ハザードマップの作成及び配布を予定しております。

○委員（登米市長（代理））

- ・H30年度の取り組みにつきましては、緊急告知ラジオが本格的に6月から開始しております。
- ・避難情報を住民の方々にしっかり伝えることが避難に繋がると考えますので、引き続き効果的に取り組んでいきたいと思っております。
- ・昨年7月の豪雨を受けまして、水害から命を守ることに付きまして、改めて市の広報誌を使い防災意識の向上を図りました。市民向けの風水害のタイムラインを作成しまして、市のホームページに掲載しているところでございます。
- ・今年度につきましては、難聴区域でラジオが聞き取りづらい箇所があり、引き続き外部アンテナ設置し改善に取り組みたいと思っております。先程も話しましたが、避難所に関するガイドラインが改定され、新しく5段階の警戒レベルに変わりますので、しっかりと市民へ普及を行い、レベル4になると避難することを伝えていきたいと思っております。

○委員（栗原市長（代理））

- ・深夜に情報をどのように伝えるか大変であることを認識しまして、危険な情報等を伝えていく方法は、現在検討中でうまく伝えられない状況です。
- ・いかにも危険なところは状況把握をしまして、大雨情報やダム放流などの情報を用いて、いち早く通行止めにするなどの形で対処して参りたいと考えております
- ・今年も6月16日の日曜日に36の関係機関、団体に参加していただきまして、1000人規模の訓練を実施する予定であります。毎年、土砂災害や堤防の水防工法などの訓練を取り入れていますが、今回は地震により河川の堤防が痛んでいるところに、前線の停滞による大雨が襲ったという想定で、河川水難救助訓練や各種水防工法訓練を行い、3月29日に改定になったガイドラインに合わせ、警戒レベルを用いた避難勧告の発令などを実際に避難訓練時に行い、風水害対策に重点をおいた訓練を予定しています。
- ・今年度は各年でやっている市の消防団全団による水防工法訓練を予定しています。
- ・地域防災計画におきましては、毎年見直しをかけて今年も実施していきます。

○委員（東松島市長（代理））

・60MHz 帯の戸別受信機を全戸配布しましたが難聴の地域がありましたので、昨年度からは難聴地域を優先的に 280MHz 帯の戸別受信機を全戸の半分に配布し、今年は残り半分を配布し、市民に防災情報を必ず伝える体制を確保します。

・昨年度末、洪水ハザードマップを作成しましたので、全戸配布するとともに、各自主防災会役員及び各自治会長等への周知を図り、防災情報伝達時の市民の避難行動を促していきたいと思ひます。

○委員（大崎市長（代理））

・大崎市は、鳴瀬川・江合川の両一級河川が通っており、水資源に恵まれ全国有数の米所があります。一方で水害に非常に脆弱で平成 27 年 9 月の関東・東北豪雨やたびたび水害に悩まされています。従いまして防災・減災・国・県の強力な力添えを賜りまして鋭意に取り組んでおります。

・今年度の取り組みは、洪水土砂災害ハザードマップが去年の 5 月に県から L2 の想定浸水区域を公表されましたので、今年度中に作成して全戸配布する予定です。大崎市は広く浸水するので避難所、避難経路をしっかりと見直していきたいと思ひます。例年行っている市の総合防災訓練も実施していきたいと思ひます。

・水防活動に従事する自主防災組織はおかげさまで去年の 8 月に市内すべての行政区を立ち上げることができました。立ち上げた場所では訓練・研修を通じて技術の維持向上を図っていきたく思っております。

・新たな取り組みとしては、昨年度大崎市の立地適正化計画を作成しまして、居住誘導区域に設定いたしました。これもやむを得ず想定浸水区域内に設定せざるを得なかったため、垂直避難の考え方から今年度から新たに土地の嵩上げ助成を導入していき、利用状況やニーズを引き続き見ながら対応検討していきたいと思ひます。

○委員（富谷市長（代理））

・昨年度富谷市におきましては、幸いにも大雨・台風・地震といった災害の影響がありませんでした。その中でも去年の 8 月 5 日～6 日にかけて比較的降った大雨の際に気象庁から 6 日に大雨警報、土砂災害警戒情報の発表がありましたが、市内の竹林川の水位が水防団待機水位まで達しなかったため、避難準備や高齢者の避難開始任意の発令などは行いませんでした。今年度においてもしっかりと対応して災害に備えていきたく思っております。

・防災訓練では、昨年まで市内の公民館をメイン会場として実施しており、仙台管区气象台とのホットライン訓練、市民向けに自然災害に備える研修会を行い、市民の防災に対する意識醸成、それから自主訓練もしっかり行っている状況です。

・ハザードマップにつきましてははっきりした物が出来ていない事から、今後県管理の洪水浸水想定区域・土砂災害警戒区域の基礎調査が今年度公開されるとなっておりますので、この

ような情報を元にしっかりとハザードマップについては整備したいと考えております。

・情報通信手段に関しては、富谷市では緊急速報・Twitter・防災行政無線・防災情報サービスに取り組んでいます。昨年度 12 月から情報通信の充実として、Line を取り入れ、市民へ情報を伝えていきたいと思ひます。

○委員（大郷町長（代理））

・大郷町は、町の中央に吉田川が流れており、過去には破堤・豪雨災害も経験しており危機意識は常に持っています。その中で国・県におきましては河川整備や堤防の嵩上げや河道掘削など、洪水対策を適切に行っていただき感謝しています。また、気象台におきましても、市町村の方に訪問をしていただいている他に、災害時の迅速な情報提供につきましては、常に心強く思っているところです。

・令和元年度におきましても、引き続き大郷町としては、北上川下流河川事務所との重要水防箇所の合同巡視、並びに秋には消防団と共催による水防訓練を実施し、水防技術の向上並びに危機意識を高めて参りたいところです。

・大郷町でも防災行政無線は町民の命を守る一つ的手段として大変重要な物と考えていますが、令和 4 年以降は今の機器では使えなくなるので改修費用がかかってきますので、今年度から計画的に整備計画を進めていきたいと思ひます。

○委員（色麻町長（代理））

・平成 30 年度の取り組みは、10 月 21 日に全町民あがての総合防災訓練を実施しました。昨年度の総合防災訓練では、平成 27 年度の関東東北豪雨での経験を踏まえて、水害対策訓練を行いました。

・大雨や豪雨の予報が出た際には、出来るだけ早い時間帯を意識し、遅くとも夜の 21 時には高齢者・要支援者に避難準備行動をとれるように通知し、町の保健福祉センターなどの避難所の準備をしていきたいと思ひます。

・昨年度防災訓練における各地区からの課題がありましたので、今後の災害対策に活かしたいと思ひます。

・今年度の取り組みでは、昨年度色麻町の地域防災計画が全面改正を行いましたので、今年度は防災ハザードマップの整備を予定しています。1000 年に一度の洪水浸水地域の情報も洪水ハザードマップに反映し、全戸配布や町内の主要事業所などに配っていきたくて思ひます。

○委員（加美町長（代理））

・平成 30 年度の取り組みは、「みちのくアラート 2018」の他に、5 月 27 日に国道 347 号線絆交流促進協議会の構成市町になっている山形県の大石田町で行われた最上川の水防演習に職員を派遣しています。

- ・例年実施している町の総合防災訓練を8月26日に実施しており、メイン会場で500人、各自主防災組織のべ3000名以上の方にも参加いただき各種訓練を実施しています。
- ・今年度の取り組みでは、昨年県の洪水浸水想定区域図を公表されたと受けまして、これまでのハザードマップを改定し全戸配布していきます。
- ・8月25日には総合防災訓練を実施し、今回は北上川下流事務所から排水ポンプ車や照明車の特殊車両を借りて展示を行います。

○委員（[気象庁仙台管区気象台気象防災部長](#)）

- ・担当から説明させていただいた通り、地域防災支援強化について取り組んで参ります。
- ・地球温暖化等により雨の降り方も変わってきているので、そのような状況につきましてお知らせしていく普及啓発活動等も考えております。皆様宜しく願いいたします。

○委員（[国土地理院東北地方測量部長](#)）

- ・（別途資料を用いて国土地理院より説明）

○委員（[宮城県土木部長（代理）](#)）

- ・各自治体、各関係機関の皆様のハード・ソフト運営に渡る減災対策について大変ありがとうございます。県としても当然緊密に連携させていただきながら協力して取り組んで参りたいと思っています。
- ・これまで手の届かなかった堆積土砂撤去とか支障木伐採に積極的に取り組んでいきたいと思っております。3カ年で終わる訳ではなく、各自治体に声を上げて一緒にやらせていただきたいと思っております。洪水浸水想定区域図については今年度で全河川完了します。計画予定通りに行っていきますのでご協力宜しく願います。

以 上